茨木市立北中学校　茨木っ子グローイングアップ計画

平成３０年１０月作成

1　３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	実践的教育活動を校区内で統一する	①合同授業研等で、連携カリキュラムを有効に活用する。 ②つながり力の育成に向けて、それぞれ（各校園所、各学年）が授業で何を大事にすべきかを明確に持つ。	①連携カリキュラムの見直し、修正について検討する。 ②各校、子どもが主体的・対話的に学ぶ授業に取組み、それぞれの実践を各校が交流・取り入れる。	①連携カリキュラムに必要な項目について検討し、追加作成を行う。 ②校区全体で子どもが主体的・対話的に学んでいる授業を実践する。
確かな学力の育成	目標に向かって最後まで努力できる子どもの育成	・協同学習を通して、生徒がわからないことを「わからない」「教えて」と言えるようにする。生徒が周りと関わり合い（つながり）ながら、主体的で深い学びができる課題設定を追求。 ・家庭学習習慣の改善。 ・生徒会活動を軸にした学習集団の育成。	・生徒が周りと関わり合いながら主体的で深い学びができる授業の展開。 ・家庭学習習慣の改善。 ・生徒会活動を軸にした学習集団の育成。	・全員が参加し、「学び」が保証された授業の展開。 ・家庭学習習慣の改善と発展。 ・生徒会活動を軸にした学習集団の育成。
豊かな人間性を育む	自他の生命と人権を大切にし、助け合い、励まし合い、思いやりのある子どもの育成	・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う。 ・進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある生徒を育てる ・基本的生活習慣を確立し、正義感、他人への思いやりの心を育てる。	・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う。 ・進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある生徒を育てる ・基本的生活習慣を確立し、正義感、他人への思いやりの心を育てる。	・人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う。 ・進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある生徒を育てる ・基本的生活習慣を確立し、正義感、他人への思いやりの心を育てる。
健康・体力の増進	体力向上を意識して取り組める生徒の育成	・前年度までの取組みの継承。 ・食育の推進。 ・子どもの発達段階や体力・運動能力の状況を踏まえた授業の展開。	・前年度の取組みの継承。 ・新体力テストの実態を把握し、計画的・継続的な体力づくりに努める。 ・運動の日常化を図る取組みの工夫。	・前年度の取組みの継承。 ・学年ごとの系統性を意識したカリキュラムの作成。 ・心と体を一体としてとらえた授業の充実。
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
概ね良好な結果であった

④言語事項
やや課題が残る結果であった

（問題形式）

①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
出題なし

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問
8二2：漢字を読む（池の水が凍る）
・もっとも正答率の低かった設問
8四2：「心を打たれた。」を文末に用いた一文を，主語を明らかにし，「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く
・もっとも無解答率の高かった設問
8一2：漢字を書く（舞台のマクが上がる）
・もっとも無解答率の低かった設問
1一：話の論理的な構成や展開などに注意して聞く
ほか、3一・二、4一・二、5一・二、6一、8二2・3、8三ア～エ・キ

国語B

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
やや課題が残る結果であった

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
概ね良好な結果であった

④言語事項
概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式
やや課題が残る結果であった

②短答式
出題なし

③記述式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問
2二：二人に続いてする質問を書く
・もっとも正答率の低かった設問
1三：「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く
・もっとも無解答率の高かった設問
3三：話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く
・もっとも無解答率の低かった設問
1一：グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する
ほか、1二、2三、3一、3二

分析

全体的に概ね良好な結果となった。とりわけ、「書くこと」については、授業内でも、文章を書く取組みに意識を置いてきたため、無解答率が低く、正答率についても改善がみられた。また、「天地無用」の誤用が多い理由を説明する問題などでは、意見や考えを文章にする力を発揮できていた。

一方「話す・聞く」では、記述式の問題では正答率が高かったものの、選択式問題での正答率が低くなった。会話の前後関係については理解できているものの、提示された選択肢の中から、自分の考えに合うものを選ぶのが難しかったことがうかがえた。「読むこと」の取組みと合わせて、会話についての出題への対策・練習を授業のなかで取り入れていきたい。

○●数学●○

数学A

（領域ごと）

①数と式

概ね良好な結果であった

②図形

概ね良好な結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

出題なし

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問

1（1）：数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る

・もっとも正答率の低かった設問

2（1）：「1個 a kgの荷物3個と1個 b kgの荷物4個の全体の重さは15kg以上である」という数量の関係を表した不等式を書く

・もっとも無解答率の高かった設問

9（2）：比例のグラフから，xの変域に対応する yの変域を求める

・もっとも無解答率の低かった設問

1（3）：2×（－52）を計算する

ほか、1（1）・（4）、3（1）・（4）、4（1）・（2）、5（1）・（3）・（4）、6（1）、（2）、7（1）・（2）、8、9（1）・（3）、10、11（2）、12、13、14（1）、15（1）

数学B

（領域ごと）

①数と式

概ね良好な結果であった

②図形

やや課題が残る結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

（無解答率）

概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問

2（1）：はじめの数が10のときの計算結果を求める

・もっとも正答率の低かった設問

3（3）：A駅からの道のりが6kmの地点において，列車アが通ってから列車エが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する

・もっとも無解答率の高かった設問

3（3）：同上

・もっとも無解答率の低かった設問

2（3）：計算の順番を入れ替えたものを選択し，その計算結果が何の倍数になるかを求める

ほか、3（1）、4（1）

分析

授業の中では『学び合い』を取り入れ、問題を解くこと・問題を説明することに取り組んできた。授業で扱うプリントの内容に合わせた小テストを行い、プリントができたことだけでなく、本当に理解ができているのかを確認し、わかった「つもり」で終わらせないことを意識して授業を行ってきた。

そして、「わからないからできない」ではなく、「わかるところまで何かを書こう」とする姿勢が感じられる結果となった。この気持ちを大切にし、できる問題を増やしていきたい。

図形の単元ではやや課題が残る結果であった。苦手意識を持つ生徒も多いので、既習の内容を復習しながら、定着させていきたい。

できる問題を増やしていけるように基礎を確認するのはもちろんではあるが、それに合わせていろんな課題をランダムに出し、違う角度から問われても答えられるように学習経験を積ませたい。

○●理科●○

（領域ごと）

①物理的領域　　概ね良好な結果であった

②化学的領域　　概ね良好な結果であった

③生物的領域　　概ね良好な結果であった

④地学的領域　　概ね良好な結果であった

（問題形式）

①選択式　　概ね良好な結果であった

②短答式　　概ね良好な結果であった

③記述式　　概ね良好な結果であった

（無解答率）　　概ね良好な結果であった

（その他）

・もっとも正答率の高かった設問
　7（3）：初期微動継続時間の長さと震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用できる
・もっとも正答率の低かった設問
　9（2）：植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる
・もっとも無解答率の高かった設問
　8（3）探究の過程を振り返り，新たな疑問をもち問題を見いだし探究を深めようとしている。アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる。
・もっとも無解答率の低かった設問
　1（1）光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる
　ほか、1（2）、2（1）・（3）、3（1）・（2）、4（1）、5（2）、6（1）、7（1）・（2）、8（2）、9（1）

分析

1 分野は知識・理解というよりは、科学的思考の問題が多く、そのような問題を解く力が十分ではない。2 分野に関しては、知識・理解の問題が多く、普段の定期テストからも定着していることがうかがえていたので、概ね良い結果が得られた。

記述式の正答率に課題があったが、今回、改善が見られた。記述のセオリーであるキーワードをしっかり押さえ、簡潔に明確に伝える文章の構成力がつけば、さらに改善がすすむと考えられる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

昨年度と比較して、国語・数学ともに平均正答率が上昇した。理科も３年前より上昇した。国語・数学ともに無解答率に大きな改善が見られる。

茨木市が定める子どもたちに育む力のうち、経年比較のできる自分力、元気力はともに目標値を大きく超えた。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

昨年度に比べ、国語・数学ともに、学力高位層の割合が増加し、低位層の割合が減少した。エンパワー層も大きく減少し、学力の底上げ見られる。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

授業力の向上

（1）　年３回の授業力向上研修
「全員が参加し『学び』が保証された授業」を目指し、教職員全体で研究を進める。

（2）　全教員授業参観交流
年間３回以上、全教員が校内で授業を公開、参観し、協同学習を基本に授業改善に努める。

（3）　教科会議
年間５回以上、各教科の連携を深め、より深い授業研究を目指す。

自学自習の改善

（1）　計画的な宿題
各教科、テスト前に集中して宿題を課すのではなく、定期的に、着実に力をつけるように課す。

（2）　ぷらすノート
ST 時に次の日の連絡を書き、宿題を確認し、家庭での課題を整理する。また、年間を通して行事予定を把握し、逆算して行動できるように仕掛けをする。

（3）　放課後学習会（ぷらすタイム）
毎週、各学年指定日の放課後に学習会を開催。学生ボランティアの力を借りながら、繰り返し課題に挑戦し、基礎・基本の力をつけていく。

保幼小中連携

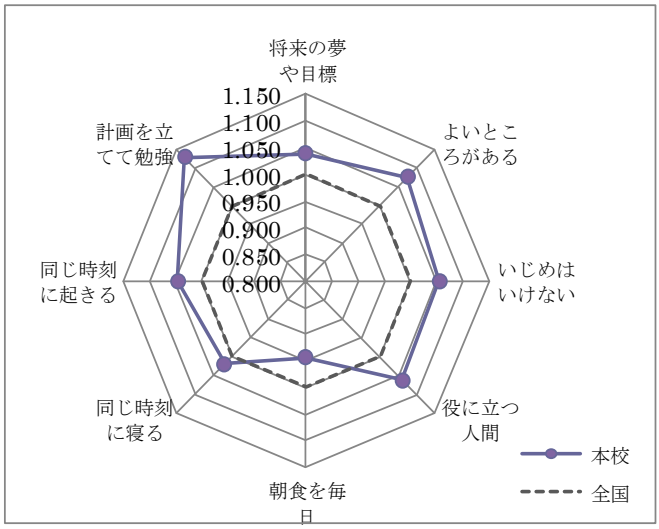
（1）　小中授業実践項目
中学校入学後の子どもの不適応予防、学力向上のため、小中で授業の基本的な流れを統一。

（2）　保幼小中連携カリキュラム
校区全体として、「目標に向かって最後まで努力できる子どもを育てる」を目標に、６つの力の向上に取り組む。今年度は「つながり力」。

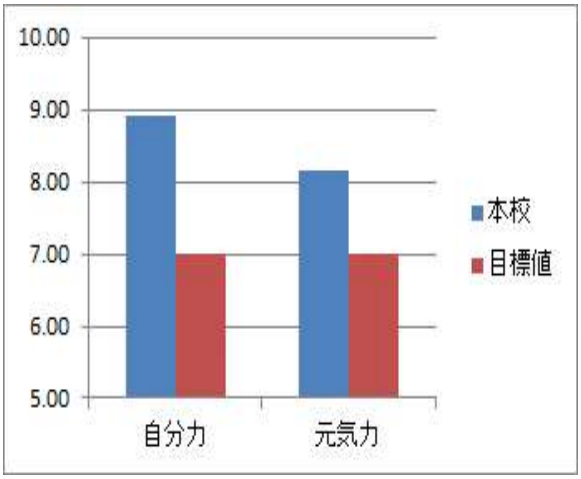
（3）　保幼小中合同研修、保幼小中合同授業研修
校区全体で統一されたテーマを、各校園所で研究し、合同研修にて交流、進行状況の確認、修正を行う。

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、５つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。
そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は８項目、目標値との比較(棒グラフ)は、３項目とも実施した『自分力』と元気力』のみとなっています。

分析

○自分力・・・これまで「自分には、よいところがあると思う」と「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目に課題がみられたが、今年度は改善された。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の項目はこれまで同様、全国平均値の基準を維持している。結果、自分力は目標値を大きく上回った。

○元気力・・・「朝食を毎日食べる」をのぞく「同じ時刻に就寝」「同じ時刻に起床」で全国平均を上回った。就寝・起床時刻は安定しているが、ともにその時刻が遅く、朝食をとる習慣が定着しないことに結びついていると考えられる。

取組み

○ゆめ力・・・キャリア教育や進路教育を中学３年間で計画的に進めている。キャンペーン集会での生徒会活動や道徳の授業・学校通信・学年通信・進路通信・学級通信を通して、子どもたちの意識向上につとめている。

○自分力・・・学校生活のほとんどは授業で過ごすため、授業の中でスモールステップを乗り越えながらしっかり力をつけ、少しずつ自信をつけていく。いじめについては、日々の学活・道徳や生活の中で指導し、キャンペーン集会でもいじめ撲滅をめざして、子どもたちの心に迫る取組みをしている。

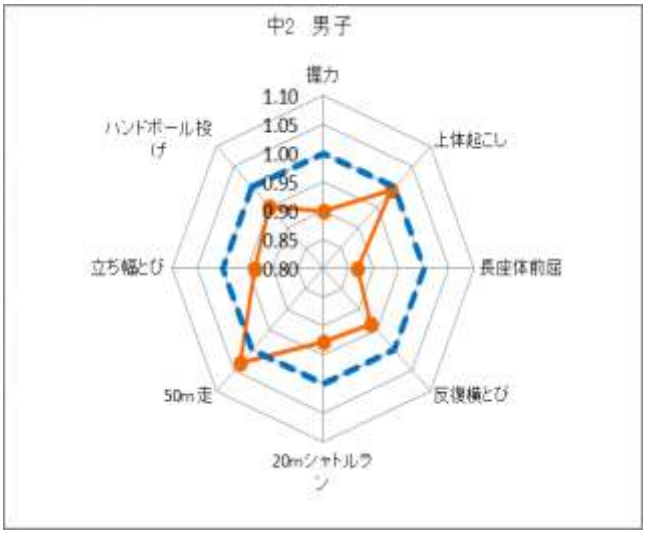
○元気力・・・各種調査結果から、スマートフォンの使用時間と生活習慣の乱れ、学力との相関関係について学活等で示し、生活習慣の改善に努め、家庭学習の向上へとつなげていく。

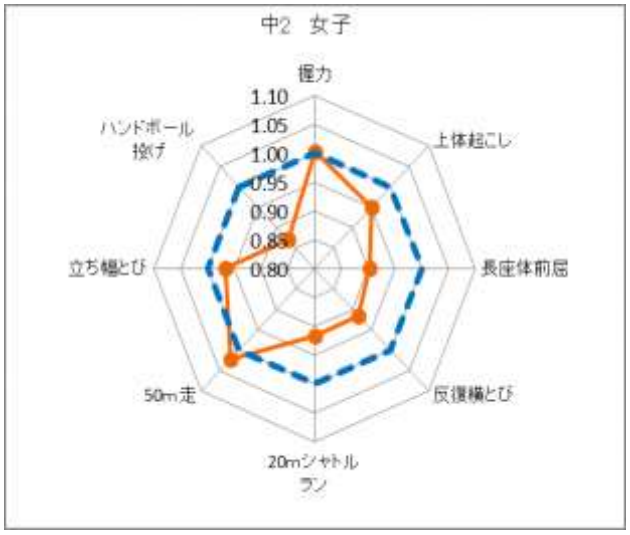
○つながり力・・・ペアや班活動など、周りと関わる活動に重きを置いて授業を実施し、学力の向上を図るとともに子ども同士で対話をする機会を多く持っている。また、班長会議や合同班長会議など班を中心に一人一人のつながりを持たせている。さらに、生徒会の委員会活動を定期的に全学年同時に行い、リーダ層の育成と学年を超えたつながりを持たせている。

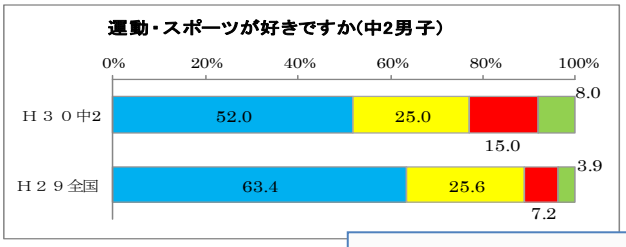
○学び力・・・学ぶ意欲を持たせるために、ぷらすノートを活用し毎日の学習や課題等の整理を図る。授業では生徒が受け身にならず、周りと対話しながら思考を深められる、全員の学びが保証された授業を目指している。また、授業での小中共通実践項目の実施や学びに集中できる学習環境を整えている。

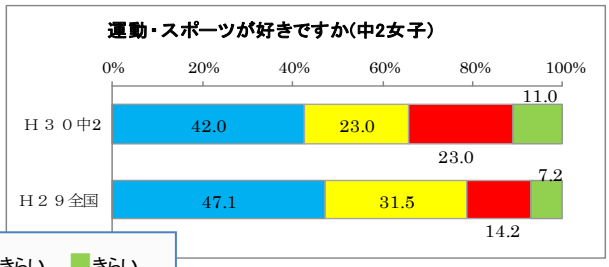
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

男子（中2）　○●体力●○　女子（中2）









好き　やや好き　ややきらい　きらい

分析

男子：握力と長座体前屈の数値が全国平均より大きく下回っている。
握力に関しては、日ごろからボールを握ったり、物を掴んだり、握り込むという動作をあまりしていないことが考えられる。
長座体前屈(柔軟性)に関しては、ストレッチやクールダウンが怪我の予防につながったり、筋力だけではない運動能力の向上につながるということの認識の低さが考えられる。

女子：ハンドボール投げと長座体前屈が全国平均より大きく下回っている。
ハンドボール投げ(瞬発力・巧緻性)に関しては、普段からボール投げなどといった全身を連動させて物を遠くに投げるといった運動をあまりしていないことが考えられる。
長座体前屈(柔軟性)に関しては、男子同様、運動に関しての重要性の認識の低さが考えられるのと全身を大きく使った動きをあまりしていないことが考えられる。

今後の授業で、男女ともに低かった柔軟性を中心に向上できるようにしたい。

取組み

①柔軟性
授業始めのウォーミングアップの際に、柔軟性向上を意識したストレッチを取り入れる。

②握力(筋力)
物を握り込むといった動作の競技(ソフトボール・ハンドボールなど)を授業に取り入れて、握力の向上を目指す。

③ハンドボール投げ(瞬発力・巧緻性)
手や肩の動きだけで物を投げるのではなく、全身を連動させて物を投げるといった競技(ソフトボール・ハンドボールなど)を授業に取り入れ瞬発力・巧緻性の向上を目指す。